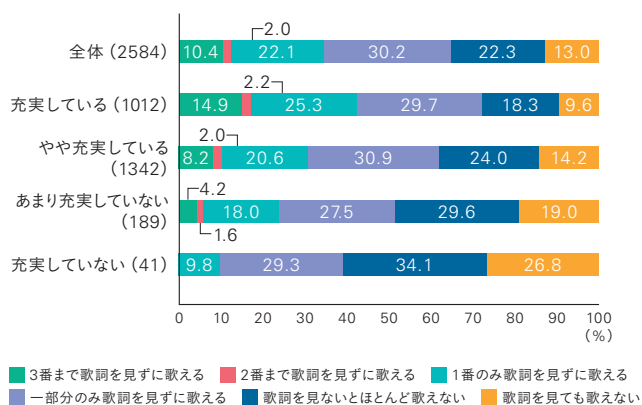


第4章 早稲田大学の取り組みなどについて

本章では、早稲田大学校歌の認知度や、大学行事への参加状況、早稲田大学が行っている取り組みへの認知度をまとめました。※学部学生の集計結果です。

『早稲田大学校歌』を歌詞を見ずに歌えますか？

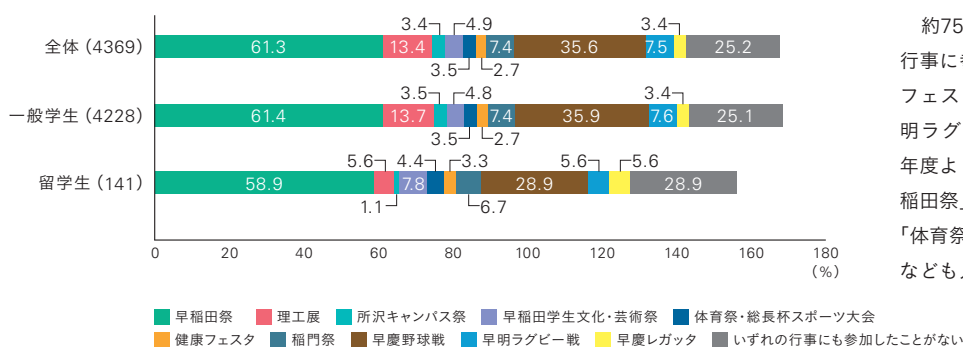


第6章の「早稲田大学は好きですか？」という設問とのクロス集計によると、早稲田大学が好きな学生は、早稲田大学校歌を歌える人が多く、また「大学生活は充実していますか？」という設問とのクロス集計によると、早稲田大学校歌が歌える人は、歌えない人よりも大学生活が「充実している」という回答が多いという結果が出ました。

学部1年生に配布している学生部発行の「CAMPUS HANDBOOK」には、『早稲田大学校歌』をはじめ、応援歌である『紺碧の空』、学生歌である『早稲田の栄光』の歌詞が掲載されていますので、早稲田スポーツの応援などの機会に参照してください。

早稲田大学の行事で行ったことがあるものはどれですか？

(複数回答可)



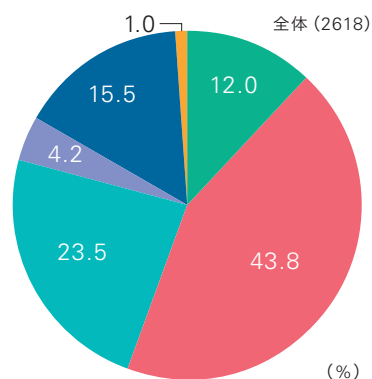
約75%の学部学生が、何らかの大学行事に参加しています。「理工展」「健康フェスタ」「稲門祭」「早慶野球戦」「早明ラグビー戦」への参加の割合が2013年度より上昇しています。留学生は、「早稲田祭」の他、「早稲田学生文化・芸術祭」「体育祭」「健康フェスタ」「早慶レガッタ」なども人気のようです。

早稲田大学が創立150周年を迎える2032年に向けて策定した中長期計画「Waseda Vision 150」を知っていますか？



「知っている」と回答した学生18.4%に対し、「知らない」「興味・関心がない」と回答した学生が46.3%を占めています。これに「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した学生35.2%を加えると、80%以上の学生に認知されていないことになります。これは学年別・入学形態別（一般入試・付属校進学・推薦）を問わず同じようなことがいえます。「Waseda Vision 150」は学生にとっても関わりの深い改革です。

早稲田大学は、学生参画・ジョブセンター（SJC）を立ち上げ、学生に大学内の業務により多く参画してもらうよう、業務の創出をしています。大学内の業務に就業する機会があれば、応募したいと思いますか？



合計すると、79.3%の学部学生が「応募したい」と回答しています。「学外のアルバイトを希望する」学生はごくわずかですので、業務内容や時給によっては、より多くの学生に学内業務に参画してもらえることが期待されます。

- ぜひ応募したい
- 業務内容によっては応募したい
- 時給によっては応募したい
- 学外のアルバイトを希望する
- あまり興味がない
- 無回答

『早稲田大学校歌』を「歌える」と回答している割合の合計は64.9%、「歌詞を見ないとほとんど歌えない」「歌詞を見ても歌えない」の合計は35.2%でした。75.0%の学部学生は、文化系・スポーツ系のいずれかの大学行事に参加しています。早稲田大学には、年間を通して大学行事が充実しており、大学行事に参加すると校歌を歌う機会も多くなるので、皆さんぜひ積極的に参加してください。

2012年11月に策定したWaseda Vision 150ですが、一年半余りたっても学生の認知度が低いようです。

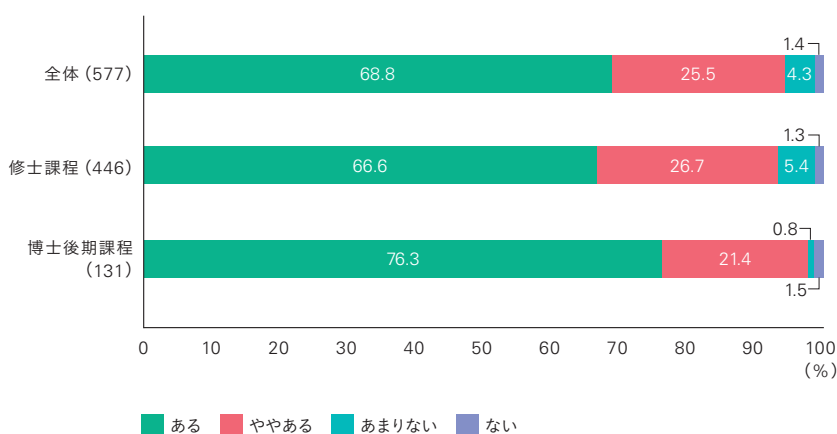
近年、学生スタッフが学内の各所業務に参画するようになりましたが、長い間早稲田大学は、大学の運営に学生の力を借りることが少なかったように思います。これからは学生も教職員と共に大学を構成する一員として、大学の教育・研究、さらに運営に積極的に参画できる仕組みを創設していきます。その中核を担うのが学生参画・ジョブセンターであり、将来的には学生スタッフが主体的に運営していくことを計画しています。80%近い学部学生が学内業務に「応募したい」と回答したことから、学生参画の増加が期待されます。

第5章 大学院学生について

本章では、大学院学生の授業への興味や研究指導方法への満足度、家計状況に関する調査結果をまとめました。

※大学院学生の集計結果です（専門職大学院の調査結果は含めずに集計しています）。

大学の授業に興味がありますか？



「ある」の回答の割合は、第1章の学部学生の結果では49.8%でしたが、大学院に進むと、修士課程は66.6%、博士後期課程は76.3%と高い割合になっています。専門の研究が進むにつれて授業への興味がさらに深まっているのは、大学院学生ならではの特徴といえます。